

英語能力試験と学生の成績評価に関する考察

— 授業アンケート調査を交えて —

熊 抱 ゆかり*

1. はじめに

2006 年 3 月に文部科学省が発表した、英語教育への取り組みとしての「英語が使える日本人の育成」では、中卒段階で英検 3 級程度の英語力（挨拶など簡単な会話ができる）、高卒段階で英検準 2 級から 2 級程度の英語力（日常の話題に関する会話ができる）を目指したものであった。大学に於いては、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学で達成目標を設定する、というものであった。「英語が使える日本人の育成」の為の行動計画として、「英語の授業の改善」や「英語教員の指導力向上及び指導体制の充実」を始めとする 7 つのポイントを挙げている。

全世界で年間 80 万人が受験する TOEFL (Test of English as a Foreign Language) の結果から、日本人の英語力が他のアジア諸国の中でも最下位レベルにあるという調査結果が出てショックを受けた日本人も多いだろう。日本人の英語が苦手な理由として、英語教育の実態^{*1}や「地理的条件、歴史的理、言語的遠距離、文化的要因、心理的障害」(岡、1994 年、pp.243-244) などが挙げられる。ボーダレス時代を迎え国際化が益々進む中、そのような言い訳は

* 福岡大学人文学部外国語講師

もう通用しないはずだ。

本稿では、TOEIC や英検などの幾つかの英語能力試験を比較・考察し、学生に行った授業に関するアンケート調査から、英語に関する調査の結果を分析する。また ESP クラスに於ける成績評価に TOEIC の受験やその結果を加味することで、学生達の授業態度や受験へのモチベーションを上げることが出来るのか、試みた結果から検証を行いたい。

2. 英語能力試験

2.1 TOEIC

TOEIC (Test of English for International Communication) は TOEFL と同じく、アメリカの ETS (Educational Testing Service) が開発した国際的レベルの英語能力試験である。留学を目的とした TOEFL とは違い、TOEIC は英語運用能力を計る試験として、大学生や社会人に圧倒的な人気がある。世界約 60 カ国で実施されており、年間約 450 万人が受験している。日本でも 1979 年 12 月の第 1 回公開テスト以来、国内では延べ 1,300 万人以上が受験した。2007 年 1 月に実施された第 128 回公開テストでの受験者数は 74,274 人、平均点は 567.7 点であり、ここ半年の受験者の平均点は 570 点位である。国際化が益々進む現代に於いて、英語力を重視している企業が多く、昇進などの認定に TOEIC の成績を加味する企業も多い。企業が新入社員に求める点数は 500 点以上であり、海外部門になると 750 点以上を期待しているようだ。2003 年度のデータによると、大学 1 年生の平均点は 382 点、4 年生では 485 点であり、大学 4 年間で約 100 点上昇していることが分かる。1992 年頃までの 10 年間は、新入社員の平均点が 370 点位であったので、着実に企業の要求する点数に近づいているようだ。

TOEIC は、2006 年 5 月実施の第 122 回公開テストから、より現実に即した状況や設定をテスト上で実現し評価する為に、試験形式が全国一斉にリニュー

アルされた。全体的なリスニングとリーディングの時間や問題数は変わらないが、各セクションの問題数と試験内容が変更されている。大きく変化した点はリスニングにアメリカだけではなく、イギリス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドのアクセントを導入したことで、リーディングセクションの誤文訂正問題を削除し、より多くの情報から読み取る能力を計るという形式を導入したことである。様々な問題形式の導入で、英語能力をより正確に測ることを目的にしている。

しかし TOEIC はリスニングと文法や語彙、リーディングのみの試験である為、試験結果が即刻英語運用能力に繋がるのか、という疑問の声もある。協会側は「TOEIC は聴解力と読解力という受動的な能力を客観的に測定することにより、話す力と書く力という能動的な能力を含めた、4 技能を総合した形でコミュニケーション能力が評価出来るように設計されている」と述べているが、コミュニケーション能力の厳密なる評価となると限界があるだろう。現在では TOEIC の受験経験の有無やスコアに関わらず、TOEIC730 点以上を目安として TOEIC LPI (TOEIC Language Proficiency Interview) の受験が出来るようになっている。面接時間は 20～25 分でロールプレイ等を含む 1 対 1 のフリーカンバセーション方式である。しかし認知度も低く、受験料が 13,000 円と高額であることと、現時点での試験会場は東京と大阪のみであるという問題点から、受験者はかなり限られてくる。

2.2 日本英語検定試験

「実用英語の普及と向上」を目的とし、1963 年に STEP (The Society for Testing English Proficiency, Inc.=財団法人日本英語検定協会) が設立された。STEP TEST (実用英語技能検定・英検) は 40 年間で延べ約 7,000 万人が受験した。英検は毎年 250 万人が受験し、中学・高校で圧倒的人気を誇る、文部科学省認定の英語検定試験である。協会はビジネスニーズに答えるべく

2004年9月より、社会人向けの英語能力試験—STEP BULATS (BULATS=Business Language Testing Service) を実施している。ケンブリッジ ESOL (=English for Speakers of Other Languages) が開発した英語能力テスト「BULATS」をベースに、日本のニーズに適したテストとして開発されたものである。

試験はコンピューターテスト、スタンダードテスト、スピーキングテストとライティングテストがあり、いろいろな組み合わせで受験することが可能である。コンピューターテストは、IRT (項目応答理論) に基づいた CAT^{*2} (コンピューター適応型テストシステム) を導入しており、能力が確定するまで約 60 分程度である。受験料は 2,900 円で、結果は試験終了と同時に表示される。スタンダードテストは、いわゆる筆記試験である。コンピューターテストと同料金であるが、試験時間が 110 分で、結果が判明するまで約 1 週間かかる。スピーキングテストは約 15 分で、受験料は 4,900 円である。ネイティブ面接官との対面式のインタビューテストで、通常の英検との大きな相違点は、ビジネスシーンに基づいたプレゼンテーションやディスカッションがあるということである。ライティングテストは、45 分の記述式の試験で、受験料は 3,900 円。ビジネスレターやメモ書きの作成、また報告書や企画書の作成など実践的な試験である。ケンブリッジ英検のライティングテストの形式に似ているかもしれない。両試験の結果は約 2 週間程で届く仕組みだ。この STEP BULATS は、コンピューターテストもしくはスタンダードテストにスピーキングテストまたはライティングテストを組み合わせで受験した場合は、セット割引があるなどのメリットもあるが、団体での申し込みしか出来ないというデメリットもある。

3. その他の英語能力試験

3.1 Oxford 英語検定試験

イギリスで開発された試験には、通常どの能力を計測する試験なのかが明記

されている。例えば Oxford ARELS Preliminary、Higher と Diploma レベルの試験ではリスニングとスピーキング、Oxford Preliminary と Oxford Higher の試験ではリーディングとライティングの能力を評価する試験である。実際に筆者も 1989 年のイギリス留学中に、リスニングとスピーキングタイプの試験を受験した経験がある。LL 教室に個別のブースがあり、小冊子になった試験問題を見ながらヘッドホンから聞こえてくる音声の質問に一定時間内に答えたり、問題用紙に印刷されているイラストを見てストーリーを作ったりするものであった。答えた内容は全てテープに録音され、試験後に受け答えの正確さや流暢さを数人の試験官によりチェックされ、合否が決定するというものであった。この形式の試験は当時日本にはなかったが、現在では日本でも様々な形式の試験の受験が可能になった。英検、TOEIC や TOEFL ほどメジャーではないが、受験料や試験の方法、試験時間の手軽さから人気を集めている CASEC と Versant という英語能力試験がある。両者の試験については以下の項目で述べたい。

3.2 CASEC

CASEC (Computerized Assessment System for English Communication) は STEP が基礎開発し、現在 (株) 教育測定研究所が開発・運営しているインターネット上で受験することが出来る英語コミュニケーション能力判定テストである。受験者の好きな時間に受験することが出来、テスト終了後その場ですぐにスコアが表示されるというシステムである。受験料は 3,500 円、試験時間は約 40 分で、2001 年 10 月の本格展開後、累計 36 万人が受験しており、受験者数は上昇傾向にある。試験は CAT 方式を導入しており、日常生活・学校生活・ビジネスなどで必要な英語コミュニケーション能力を判定する試験である。CASEC は次の 4 つのセクションに分かれていて、1,000 点満点で判定される；

Section1—コミュニケーションに不可欠な語彙の知識を測定

空所補充、4肢択一問題。15問で250点満点。

Section2—コミュニケーションに不可欠な表現の知識を測定

空所補充、4肢択一問題。15問で250点満点。

Section3—リスニングでの大意把握能力を判定

リスニング、4肢択一問題。15問で250点満点。

Section4—具体情報の聞き取り能力を判定

リスニング、ディクテーション問題。10問で250点満点。

3.3 Versant

Versant はアメリカの Ordinate 社（1996年設立）が開発し、日本では2002年3月から開始された試験である。以前は PhonePass と呼ばれたが、2007年1月から変更されている。電話（フリーダイヤル）で24時間受験可能である、完全自動の口語英語能力テストである。この試験も場所と時間を選ばず、受験者の都合に合わせて受験することが出来るのが魅力である。問題構成は、音読・復唱・質問・文の構築と自由回答式質問である。Versant で測定出来る能力は、文章構文・語彙・流暢さ・発音である。試験時間は約10分、受験料は5,250円^{*3}で、コンピューターによる自動採点なので、受験後数分で結果を知ることが出来る^{*4}。コンピューターによる採点結果と人間の採点者による結果には高い相関関係があるとし、測定精度に関しても何ら問題は無いとしている。実際に韓国 FIFA ワールドカップのボランティアの英会話力判定に利用されたという実績もあり、日本でも大手企業の新入社員を対象とした英会話力の評価テストとして採用している企業もある。また世界でもあるゆる用途（入学・クラス分けの学力判断や、採用候補者や現職社員の査定など）に利用されているということだ。

以上で述べたように、受験料が比較的安く、いつでも好きな時に受験が出来て、すぐに結果が分かるというのが CASEC と Versant の魅力である。しか

し両試験とも試験会場に向う手間は省けるというメリットに反して、偽装して受験することも可能である。本人が見えない電話とインターネットという特質上の問題点も否めない。

4. 授業アンケート調査

4.1 調査の目的とその方法

授業アンケート調査は、2005年度から2006年度にかけて、ESPクラス以外の1年生の2クラスに於いて、授業回数がほぼ半ばに達した頃に実施した。調査の目的としては、使用しているテキストについて学生達がどのように感じているのか、また日頃から「大学生になって英語力が落ちた」と言う学生の声に耳にすることがあるので、英語の学習状況などを把握しておきたい、と思ったからである。アンケート調査を行ったクラスでは、リスニングやリーディングを中心とした、歌などを導入したテキストを使用しており、テキストが学生達のレベルに合っているかどうかを問う質問から始まり（①～④）、英語の自宅学習時間や資格試験などに関する項目（⑤～⑪）、また英語の学習についてや留学に関する事など（⑫～⑯）を無記名で提出してもらった。それらの質問の中で、本稿の趣旨に合う質問⑤以降について、その結果を報告し考察を行うものである。

4.2 調査結果

回答数	80人
-----	-----

⑤ 英語の自宅学習を週にどの位していますか？

5時間以上	0人
3～4時間位	4人

1～2時間位	56人
全くしない	20人

⑥ 大学の英語に関してどう思いますか？（重複可）

実用的	38人
実用的でない	20人
難しい	24人
簡単	12人

⑦ あなたの英語能力についてどう思いますか？

大学生になって高まった	10人
高校生の時と変わらない	35人
大学生になって落ちた	35人

⑧ ⑦の理由を簡単に記入してください。

<回答のまとめ>

* 「大学生になって高まった」と回答した学生

— 高校の時より単語を多く覚えた

— 長文が読めるようになった

* 「高校生の時と変わらない」と回答した学生

— 勉強をしなくなった

— 中学の時から英語が苦手

* 「大学生になって落ちた」と回答した学生

— 文法的なことをしなくなって分からなくなった

— 授業時間が減ったので

— 毎日ないから単語などを忘れてしまった

—急に難しくなり分からなくなった

—学ぶことが多くて英語の勉強時間が取れない

⑨ 英語資格試験を受験したことがありますか？

日本英語検定試験	53人（合格級；2級4人、準2級13人、3級26人、4級以下7人）
TOEIC	8人
TOEFL	2人
その他	0人
全くない	27人

⑩ 今後受験する予定の英語の試験はありますか？

日本英語検定試験	3人（準1級1人、2級2人）
TOEIC	23人
TOEFL	2人
その他	0人
全くない	49人
無回答	5人

⑪ 興味のある英語の資格試験はありますか？

日本英語検定試験	14人
TOEIC	55人
TOEFL	10人
その他	0人
全くない	23人

⑫ 英語についてどう思いますか？

世界共通語として習得は必要不可欠	53 人
教養として知る程度でよい	21 人
不必要	0 人
どうでもいい	6 人

⑬ 大学以外で英語を学んでいますか？

英会話教室	3 人
英語資格講座	1 人
その他	0 人
大学のみ	76 人

⑭ 外国で英語を学んだことはありますか？（重複可）

留学経験	0 人
英語研修	0 人
ホームステイ	2 人（14 日間）
その他	3 人（修学旅行）
全くない	75 人

⑮ 海外で英語を学びたいと思いますか？

長期留学（1年以上）したい	15 人
短期留学したい	13 人 （14 日間が多数）
ホームステイしてみたい	27 人
興味ない	33 人

- ⑩ 自分の英語能力を 5 段階評価して（1 が最低、5 が最高）、その数字を□の中に記入してください。

<回答のまとめ>

- 単語/熟語・読解・文法に 3 以上を付けた学生が多い
（その中で単語/熟語と読解に 4 以上を付けた学生が 25 人）
- 英会話・リスニングに 4 以上を付けた学生は各 3~4 人
- 英作文は 1~3 評価を付けており、4・5 の評価を付けた学生は 0 人

4.3 調査結果の分析

今回のアンケート調査の対象学生は、英語の授業を週に 2 回受講しているのだが、多数の学生の自宅学習時間が 1~2 時間程度であり、全く勉強をしていない学生が 20 人いた。つまり予習もせずに授業に臨む学生が、4 人に 1 人いるということになる。

大学の英語の授業に関して、実用的であると考えた学生が実用的でないと考えた学生を上回った。同じクラスでも個人の英語力の差により、授業内容の難易度に差が生じることは仕方がないかもしれない。しかし今後のクラス分けの際にこの点を加味すべきか、考慮の余地があるかもしれない。大学生になっての英語能力については、高校生の時と比べて変わらないとか、大学生になって落ちたと考える学生が非常に多く、全体の 9 割近くを占める。高校まではほぼ毎日あった英語の授業が、大学になって大幅に減った為に勉強をしなくなった、というのが主な理由になっているようだ。

英語資格試験に関しては、高校までに英検を受験した学生が全体の 7 割近くいて、その中に TOEIC や TOEFL の受験を経験したものもいた。今後の受験予定や興味のある資格試験に TOEIC を挙げた学生が多かった。また世界共通語として英語の習得は必要不可欠であると考えた学生が全体のほぼ 7 割いて、「どうでもいい」と言う回答もみられたが、「不必要」であると考えた学生はい

なかった。

大学以外で英語を学んでいる学生は4人にとどまっているが、留学して英語を学んでみたいと回答した学生が、興味ないと回答した学生を上回っている。自分の英語力に関しては、単語、熟語や読解力には自信があるが、英会話やリスニング、英作文に自信がない学生が多くみられた。実際のコミュニケーションに必要な英語運用能力という点では、自信のなさが伺える。

5. 成績評価に TOEIC を加味する試みとその結果

担当する ESP クラスの成績評価に、TOEIC の受験やその点数を加味する試みを3年前から行ってきた。その理由としては、折角 ESP クラスを受講しているにもかかわらず、殆どの学生が資格試験を受験しようとしなかったことだった。目標を定めないと学習のモチベーションも上がらないし、実際に受験してみないとどういう試験なのか分からない。初回の授業で行うイントロダクションで、成績評価方法について明確に伝えているが、一般的には「授業の出席・参加・予習状況とレポート提出」で30点、学期末の筆記試験で70点、合計100点満点で評価するようにしている。そこで当初 ESP クラスで TOEIC 試験対策のテキストを使用した時、「TOEIC を受験し、その結果を見せることでポイントをプラスして成績に加味する」旨を伝えたが、具体的に何点プラスするのかを伝えていなかったため、実際に受験してその結果を持参した学生は、前・後期共それぞれ3人程度にとどまった。

そこで、2006年度から100点満点の評価に、'努力点'として「ボーナス点」を加えることにし、初回の授業のイントロダクションで学生達にその旨を伝えることにした。TOEIC の受験 (IP テストを含む) のみでプラス15点、TOEIC で600点以上の成績であれば単位認定 (学期末の筆記試験の受験は必須であり、その点数により成績評価を行うというもの) という大胆な成績評価を試みた。この「ボーナス点」のシステムは、例えば通常の評価で65点を取っ

ている学生が TOEIC を受験し、成績表を提示すれば 15 点のボーナス点が付くので、総合的な成績評価は 65 点+15 点=80 点になる。もし通常の成績で既に 100 点を取っていれば 115 点になるが、成績評価はあくまでも 100 点である、というものである。勿論 TOEIC の受験なしでも 100 点を取ることは可能である。

授業の中で、公開テストや大学内で行われる IP テストの受験案内を、出来るだけ行うことにした。勿論、強制であってはいけないので、受験希望者はエクステンションセンターで詳細を尋ねるように案内するにとどまった。その結果、2006 年度後期の ESP の 4 クラス（1・2 年生）に於いて、受講者 156 人中、39 人が TOEIC を受験し、ボーナス点を獲得している。つまり 4 人に 1 人が受験したことになる。そのうち 600 点以上を獲得した学生が 3 人（最高点は 720 点）、4 クラスの平均点は 415 点^{*5}であった。3 人に 1 人が受験したクラス（2 年生）は、平均点が 541 点であった。興味深いことは、TOEIC を受験した 39 人中、無遅刻・無欠席の学生が 24 人、1 回のみ欠席が 8 人で、39 人全員が授業態度も非常によいことが分かった。受験者の中には、2 回受験した学生も数人いて、質問に来る学生も多かった。また受験した 39 人中 31 人がボーナス点を加算しなくても 80 点以上の評価であり、そのうち 22 人が 100 点満点の成績評価を得ている^{*6}。

6. おわりに

TOEIC や社会人向けの英検一STEP BULATS、また Oxford 英語検定試験や CASEC、Versant などの英語能力試験を比較・考察してきた。インターネットや電話で手軽に受験することが可能になり、低料金で即座に成績が判明するというメリットもある。

学生に行った授業に関するアンケート調査から、その結果の分析を試みた。アンケートの結果から、大学生になって英語力が落ちたと感じる学生も多いが、

授業時間が減ったとはいえ、自らの勉強不足が原因であることが分かる。その反面、英語が世界共通語として必要不可欠であると考える学生が多く、留学などに興味がある学生も多数であった。英語資格試験などに関しては、英語運用能力を計る TOEIC の受験に興味がある学生が多い。しかし自らの英語力の分析に於いては、英語運用能力に自信がない学生が多い、という結果が出た。

また ESP クラスに於ける学生の成績評価に TOEIC の受験を加味するという試みでは、受験をするという目的から授業に対する姿勢により影響がみられた。「ボーナス点」の導入により受験に向けての目標が出来ることで、学生達の授業態度や受験へのモチベーションを上げる効果は大であったと思う。この「ボーナス点」を導入した評価に関しては今後も継続して行い、調査・分析を行っていく予定である。

[註]

- * 1 近隣国の中国や韓国と比較しても、日本の英語教育の遅れは顕著である（河添 2005、熊抱 2006 参照）。
- * 2 受験者の解答の正解・不正解によって次の問題の難易度を変化させていくシステムであり、測定精度は高い。
- * 3 試験の種類により、4,200 円と 5,250 円がある。
- * 4 テスト用紙やテストの説明などはメールの添付で送付されてくるので、パソコンがあれば、テスト結果はインターネット上で数分以内で確認が可能である。
- * 5 1 年生 2 クラスの平均点は 386 点、2 年生 2 クラスの平均点は 445 点である。
- * 6 TOEIC の受験がなく「ボーナス点」がもらえなくても、100 点満点の評価を得た学生は 7 人であった。

[参考文献]

- 岡 秀夫 (1994) 「スピーキングとオーラル・コミュニケーション」『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』大修館書店 239-265
- 河添恵子 (2005) 「アジア英語教育最前線 遅れる日本? 進むアジア!」三修社

熊抱ゆかり（2006）「英語教育と英語習得—異文化交流を交えて—」日本比較文化研究

No.73 19—28

<http://casec.evidus.com>

<http://www.cieej.or.jp>

<http://www.eiken.or.jp>

<http://www.ets.org>

<http://www.mext.go.jp>

<http://www.tetco.co.uk>

<http://www.toeic.or.jp>

<http://www.versant.jp>

付録

授業アンケート

以下の質問に対して該当する箇所にチェックを入れてください。また記述式の場合は下線部に記入してください。

① あなたは現在使用しているテキストに満足していますか？

かなり満足 → ②に進んでください

満足 → ②に進んでください

普通 → ③に進んでください

不満 → ④に進んでください

かなり不満 → ④に進んでください

② 満足している箇所にチェックを入れてください。(重複可)

歌詞の聞き取り リスニングのポイント 長文 その他

③ 満足でも不満でもない理由を簡単に記入してください。

.....

④ 不満な箇所にチェックを入れてください。(重複可)

歌詞の聞き取り リスニングのポイント 長文 その他

⑤ 英語の自宅学習を週にどの位していますか？

5時間以上(約.....時間) 3～4時間位 1～2時間位 全くしない

⑥ 大学の英語に関してどう思いますか？(重複可)

実用的 実用的でない 難しい 簡単

⑦ あなたの英語能力についてどう思いますか？

大学生になって高まった 高校生の時と変わらない 大学生になって落ちた

⑧ ⑦の理由を簡単に記入してください。

.....

⑨ 英語資格試験を受験したことがありますか？

日本英語検定試験(.....級合格) TOEIC(.....点) TOEFL(.....点)

その他(.....) 全くない

- ⑩ 今後受験する予定の英語の試験はありますか？
- 日本英語検定試験(____級) TOEIC TOEFL その他(_____)
- 全くない
- ⑪ 興味のある英語の資格試験はありますか？
- 日本英語検定試験 TOEIC TOEFL その他(_____)
- 全くない
- ⑫ 英語についてどう思いますか？
- 世界共通語として習得は必要不可欠 教養として知る程度でよい
- 不必要 どうでもいい
- ⑬ 大学以外で英語を学んでいますか？
- 英会話教室 英語資格講座 その他(_____) 大学のみ
- ⑭ 外国で英語を学んだことはありますか？（重複可）
- 留学経験(____年) 英語研修(____日) ホームステイ(____日)
- その他(____日) 全くない
- ⑮ 海外で英語を学びたいと思いますか？
- 長期留学（1年以上）したい 短期留学したい(____日位)
- ホームステイしてみたい 興味ない
- ⑯ 自分の英語能力を5段階評価して（1が最低、5が最高）、その数字を□の中に記入してください。
- 英会話 リスニング 読解 単語/熟語 文法 英作文